



広島市食検だより

2021年10月 第68号



牛の肝臓に住んでいる虫？

以前、食検だよりでは、「第15号」と「第47号」でお肉の中に住んでいる虫『住肉孢子虫』じゅうにくほうしちゅう

について取り上げました。今回は牛の肝臓に住んでいる虫『肝蛭』かんてつについてご紹介します。

① 肝蛭ってどんな生き物？

体長は2～3cmほど。木の葉のような形をしています。
肝臓にある胆管の中に住んでいることがあります。



さらに拡大してみると…

おいしい側



消化管や精巣、卵巣があります。肝蛭は一つの体に雄と雌の両方の機能を併せ持つ生物です。

あたま側



吸盤が2個ついています。大きい方を腹吸盤、小さい方を口吸盤といいます。

② どうやって牛の肝臓に住み着く？

○肝蛭は、水辺の草にくっついた幼虫（メタセルカリア）を草と一緒に食べてもらうことで、牛の体の中へと入ります。食べられた幼虫は腸の壁を突き破っておなかの中をさまよったのち、肝臓にたどり着き、そこに住み始めます。

○肝臓（胆管）の中に肝蛭が住んでいると、胆管炎や肝硬変などの肝機能障害だけではなく、貧血を起こしてしまうこともあります。

○おなかの中で迷子になってしまい、肝臓にたどり着けずに他の臓器に迷い込んでしまうこともあります（肺や子宮など）。



私たちが一頭一頭検査しているので、肝蛭のいる肝臓（しバー）が市場に出回ることはありません。
ご安心ください！